

August 12, 2009 07:00 AM Australian Eastern 

クイーンズランドのIMBcomとPROLOR Biotechが非独占的技術ライセンス契約

豪ブリスベーン発 -- (ビジネスワイヤ) -- クイーンズランド大学 (UQ) 分子生物科学研究所 (IMB) の技術の商品化を行うIMBcomは本日、PROLOR Biotech Inc (旧Modigene Inc) がクイーンズランド大学のヒト成長ホルモンレセプター細胞株に対する非独占的ライセンスを取得したと発表しました。

ヒト成長ホルモンのメーカーは現在、下垂体摘出げっ歯類 (下垂体を外科的に切除したラット) を利用してホルモン効果をアッセイしています。ヒト成長ホルモンは、その後動物に投与され、動物の体重増加と大腿骨の長さを測定することで効果が評価されます。このアッセイは、コストが極端に高いだけでなく、一貫性のない結果を生じます。

UQの細胞株は、ホルモン効果を測定したり、血清中における中和抗体の存在を確認したりすることができるため、以下のような3つの明瞭なメリットを提供します。

1. 顕著なコスト節約
2. 結果の信頼性と一貫性の向上
3. 試験用動物の不使用

IMBcom最高経営責任者のピーター・イスデール博士は、同技術をPROLOR Biotechのような企業にライセンス供与することを歓迎し、ヒト成長ホルモンを生産する他社がPROLOR Biotechの例に倣うことを期待していると語っています。

PROLOR Biotech社長のシャイ・ノビク氏は、次のように語っています。「当社は、UQの細胞株によって、長時間作用型ヒト成長ホルモン (hGH) の開発と生産が促進されるものと信じています。この細胞株が、ホルモンの効果を測定できるだけでなく、hGHに対する中和抗体を検出できるからです。」

IMBcomについて

IMBcom (www.imbcom.com.au) は、クイーンズランド大学分子生物科学研究所におけるバイオテクノロジー研究の成果を商品化する同大学の企業です。

PROLOR Biotechについて

PROLOR Biotech Inc. (www.prolor-biotech.com) は、CTPの特許技術を応用することで認可済み治療用タンパク質を長時間作用型に改良する開発を行っている生物医薬企業です。現在、同タンパク質の年間売上高は世界で数十億ドルに上ります。同社は現在、長時間作用型のヒト成長ホルモン、インターフェロン・ベータ、エリスロポエチンを開発しており、いずれも後期前臨床の開発段階にあります。

本記者発表文の公式バージョンはオリジナル言語版です。翻訳言語版は、読者の便宜を図る目的で提供されたものであり、法的効力を持ちません。翻訳言語版を資料としてご利用になる際には、法的効力を有する唯一のバージョンであるオリジナル言語版と照らし合わせて頂くようお願い致します。

Contacts

IMBcom
Christopher Price, 61 (0) 409 000 887
VP Commercial Development
c.price@imbcom.com.au

or

PROLOR Biotech
Shai Novik, 972 866 644 7811
President
shai@Prolor-biotech.com